

鹿屋市まち・ひと・しごと創生総合戦略有識者委員会

日時	令和元年 10 月 20 日（火）10 時 00 分から 12 時 00 分
場所	市役所 7 階 大会議室
出席者	委員 16 人 坪水徳郎、下小野田寛、落司ひとみ、松菌英昭、片野田拓洋、橋口浩二郎、内野匡章、是澤隆雄、角之上祥一、長山伸一、伊藤ふさ、丸野里美、有村芳子、宮下昭廣、隈崎和代、小林千鶴

■主な質疑等

発言者	内容
委員 事務局	<p>1 やってみたい仕事ができるまち</p> <p>○スマート農業普及率とは何の数値の割合か。 ⇒スマート農業には、ドローン、環境制御装置などあるが、ドローンによる農薬散布の実証について K P I の設定をしている。ドローンによる農薬散布を実施しているほ場の面積が 81.51ha で、鹿屋市全体のほ場面積が約 10,100ha であることから 0.9% となった。最終年度の 20%、2,020ha を目標に推進していきたい。</p>
委員 事務局	<p>2 いつでも訪れやすいまち</p> <p>○移住支援について、目標が 50 に対して実績が 10 であったが、鹿屋市はワンストップ窓口で鹿屋移住サポートセンターを作られたところであるが、半年ではあるが、今年度の状況を知りたい。 ⇒これまでの実績としましては、昨年、相談件数が約 30 件であったが、9 月末で約 60 件と 2 倍になっている。新型コロナウイルスの影響で移住の動きが鈍くなっていることから、現在のところ、結果には繋がっていない状況である。</p>
委員 事務局	<p>○入込客数であるが、約 150 万人と結構な数であるが、カウントはどのようにしているのか。 ⇒県が取りまとめをしているものを利用している。各種観光施設、イベントへの参加者数などを集計し、係数を掛けたものとなっている。</p>
委員 事務局	<p>3 子育てしやすいまち</p> <p>○女子高の充実を図ることはよいが、鹿屋市の総合戦略としては、幼稚園、保育園、小学校、中学校、高校と子育てしやすいということを目指していくのであれば、それぞれ充実していかなければならない。 ⇒幼児教育から小、中、高まで年代に応じて全て大事な部分である。 小中学校については、校舎の大規模改修、空調設備整備を実施している。また、小規模校については、保護者の考え、地域の考えを聞きながら対応している。</p>

<p>委員 事務局</p> <p>委員 事務局</p> <p>委員 事務局</p>	<p>幼稚園、保育園については、潜在的待機児童を指標にしているが、空き待ちの児童のことであり、定数上はカバーできているが、あそこの幼稚園が良いなどの需要があり、そこにミスマッチが生まれている状況である。子育て会議等で調整を行っている。</p> <p>○認定こども園について、分かりやすく教えていただける窓口があればよい。 ⇒「パパ・ママ・子供の便利帳」という冊子を毎年書き換えながら分かりやすいものを作っている。指摘のとおり難しかったり、分かりにくかったりする部分もあると思うが、窓口での対応やアプリの利便性向上、保育園、幼稚園に対して分かりやすい資料を提供するように日々努めていく。</p> <p>○保育士の就職支援サイトのことについて掲載されているが、就職の実績はどれくらいか。 ⇒登録が33人いてマッチングを行ったが、このサイトを経由する形での就職は0であった。その他に第一幼短等との情報交換を行い、就職の斡旋をすることや就職面談会にも参加するなどの取組を行っている。</p> <p>○鹿屋女子高の定員充足率について、新校舎になって、平成30年はどれくらいだったのか。 ⇒女子高の入学者数であるが、定員200人に対して、平成31年度が152人、平成30年度が158人、平成29年度が152人ということで、150人程度を推移している。</p>
<p>委員 事務局</p> <p>委員 事務局</p> <p>委員 事務局</p>	<p>4 未来につながる住みよいまち</p> <p>○くるりんバスについて、高校の通学に使えるようにできないのか。 ⇒利便性については、路線に沿ってアンケート調査を行っている。現在の利用者は高齢者が多い状況である。すぐに学生をメインターゲットとした変更は難しいと思う。</p> <p>○ゴミの排出量について、令和元年度が867gとあるが、過去の推移はどうなっているのか。 ⇒令和元年度の867gは一人当たりの数字であるが、ゴミの総排出量でいくと、32,500tくらいある。平成24年、8年前であるが、総排出量が35,270t、一人当たりが914gとなっているので、平成24年からすると減少している状況である。</p> <p>○防犯について、今年に入って不審者情報が多く聞かれる。学校周辺に防犯カメラを設置することはできないか。 ⇒防犯カメラの設置については、現在鹿屋市は、中央地区の飲み屋街に設置している。その後の計画はない。不審者情報については、市も情報が入ることから、警察へのパトロールの依頼とPTAに対してもお願いをしている状況である。</p>
<p>委員</p>	<p>5 とともに支えあい、いきいきと暮らせるまち</p> <p>○鹿屋には産婦人科が3院しかなく、十分な受入れ体制ができていない。産科医</p>

<p>事務局</p> <p>委員</p> <p>事務局</p>	<p>が足りないということで、今後、産科医を来てもらうような政策をとらないのか。</p> <p>⇒平成 27 年まで 6 名であったことから、広域的に県への要望を行い、大学病院等から来ていただき、現在 8 名体制になっている。平成 30 年度から 8 名体制が続いている状況である。新たな産科医についても要望活動が続いている状況であるが、今後も常勤の産科医が増えるように努力するところである。既存の病院を維持しながら、分娩される妊婦の方々に不便がないように今後とも取り組んでいきたい。</p> <p>○助産師を鹿屋市立の看護学校で養成することはできないか。奨学金制度などを作るなど研究してほしい。</p> <p>⇒助産師を養成するのに相当なカリキュラムや受入態勢を準備する必要がある。鹿屋市では、助産師の資格を取るために学校に行っている人に助成をしている。この方が鹿屋の病院に数年間勤めた場合、支援した助成金は返還しなくてよい。現在、6 名の方が支援させていただいて、その 6 名が鹿屋の産婦人科に勤務している。</p>
<p>委員</p> <p>事務局</p> <p>委員</p> <p>事務局</p> <p>委員</p> <p>事務局</p>	<p>6 令和 2 年度の主な事業について</p> <p>○子育てしやすいまちの ICT 教育、プログラミング教材の導入について、対象が小学校 5、6 年生となっているが、低学年ではプログラミング授業はどうなっているのか。</p> <p>⇒低学年については、プログラミングの授業は行っていない。現在、電子黒板が普通教室、特別教室に整備されている。来年度からタブレットが導入されれば、教師が作成した学習内容について、子供たちが電子黒板を見ながら、手元を見ながら、直接タブレットを使って回答することができる。先生は一人一人の学習の状況がデータとして残すことができる。一人一人の進捗状況を確認することができ、勉強に対するアドバイスができる。</p> <p>○鹿屋市としての SDG s の取組として、市民にどのように発信しているのか。</p> <p>⇒市民の皆様に SDG s との接点を分かっていたくよう、市広報で特集を組んだところである、その他、小中学校での出前講座の実施や、ある企業と連携して、リナシティの周辺でゴミ拾いを実施するなどしている。行政として、一つ一つの事業を推進していくことが、SDG s のゴールに進んでいくものと考えている。行政だけでできるものではない。市民の皆様の理解、ご協力が必要である。</p> <p>○看護専門学校の卒業生が鹿屋に残ってもらえるような取組があるか。</p> <p>⇒社会人枠で入学した者は、ほとんどが市内で就職している。また、卒業後に市外に出た学生も本市に帰ってきている傾向がある。卒業生を対象に U ターン施策の一環として取り組んでいく。</p>
<p>委員</p>	<p>6 その他</p> <p>○鹿屋市の空き家はどれくらいあるのか。空き家になった理由、相続放棄をして</p>

事務局	<p>そのままなっている等いろいろあると思うが、数字が分かれば教えてほしい。 ⇒今年の3月時点の鹿屋市全域の空き家の総数が、2,038件である。相続放棄などの内訳は把握していない。</p>
委員	<p>○「もし認知症になった場合どうしますか」と前もって誓約書を書くというのがある。それと同じように、急に入院したりなどで空き家になるケースもある。そうなる前に元気なうちに、「住めなくなったらこうします」というような誓約とか、そういうルールがあればいいのではないかと思う。鹿屋市が他に先駆けて取り上げたらいいと思う。これからまだまだ増える空き家を防ぐことができると思う。</p>
事務局	<p>⇒空き家だけではなく、今、元気なうちに、亡くなった時のことを書いておく、エンディングノートで将来どうする等、進めているが、そういう中で自分の財産である家をどうすると町内会に寄付するとか、しっかり後のフォローをしてもらうのが一番いい。エンディングノートの例に自分の持ち家をどうする等を例示するなどの対応をとりたい。</p>